

九州産業考古学会報

第12号 2009年9月1日発行 発行元：九州産業考古学会



ちょっぴり遅れたご挨拶

池森寛（会長）



何故私なのか分からないまま会長役を承り、前期高齢者の年長組みとなり、そのせいなのか？ とりあえず繋ぎの役として務めております。張り合いがない会長ですが、ちょっぴり前進を心がけている次第です。

さて、本会は今年20周年。いろいろなことがあったと思いますが、大牟田の炭鉱遺産や志免町の立抗槽の保存をはじめとする多く保存運動に貢献し、また、最近では福岡県の近代化遺産関連の本の出版も実現し、社会的にその存在が知られるようになってきました。これらは皆様の活動の賜物と思っています。さらに、今年は産業遺産研究で若い方お二人(市原さん・永吉さん)が博士の学位を取得され

るなど、将来が楽しみな慶事もありました。

今年度は、総会でお話ししましたように、会報の恒常化と日本技術史教育学会との共催で本格的な研究発表会、さらには筑後の近代化遺産の出版計画などを、ちょっぴり前進のテーマにしています。皆様のご協力よろしくお願いたします。

いつも思うのですが、私たち技術屋が技術史を研究すると、どうしても技術・工学の進展ばかりを追いかけ、その技術が社会とどの様に関わってきたかを忘れてしまいがちです。一方、人文系の研究は社会問題が中心で、技術そのものについての言及は少ないように思われます。技術史研究は、内部史(技術そのものの歴史)と外部史(技術と社会の関わり)の両方を論じてはじめて本当の意味を持つと思っています。このことを考えると、文系の方と理系の方とが交流できる本会のような楽会(学会)の存在は大変重要ではないでしょうか。

末尾ですが、毎回会報の発行にご尽力頂いている市原猛志編集担当に感謝いたします。もう一つ、会長として最も大事なメッセージをひと言、会費の納入をお忘れなくお願いたします。

【報告】

2009 年度総会及び見学会

砂場一明（事務局長）

九州産業考古学会では、創立 20 周年にあたる 2009 年度総会及び見学会を、4 月 25・26 日の両日、開催した。初日はあいにく季節外れの寒さであったが、出席者 11 人はワゴン車 2 台に分乗し、一泊二日にわたる産業遺産ツアーを堪能した。その見所の幾つかを紹介してみよう。

まず福岡県築城町上深野の旧蔵内邸は、後藤寺(田川市)の炭鉱主蔵内次郎作の旧宅で 1887 年(明治 20 年)に創建されている。



写真 1 旧蔵内次郎作邸(福岡県築上町)

見事な庭園に囲まれた 7 棟から成る大邸宅で、床面積は約 370 坪に及ぶという。ずっと個人所有であったため保存状態も良く、近代和風住宅として貴重である。特別に拝見させて頂いた仏壇は、金唐革紙(きんからかわがみ)なる貴重品が無造作に使われるなど、贅を尽くしたものであった。県指定文化財であるが、料亭「深翠居」として使用されていることから、一行はここで昼食をとった。

途中、宇佐の掩体壕など見学しながら、国道 10 号を大分県佐伯市まで南下した。佐伯港近くに、旧佐伯海軍防備隊司令部の施設群が残されている。庁舎はそのまま今も海上自衛隊庁舎として使われており、重厚な外観は

旧海軍施設であったことを如実に物語る。しかしながら老朽化が進み耐震性に問題があることから、近く建て替えられるという。



写真 2 旧佐伯海軍防備隊司令部(佐伯市)

荻の里温泉(竹田市)で宿泊した翌日は、白水ダムへと向かった。大分石工の高度な技術により 1938 年に完成した石造堰堤で、正式には白水溜池堰堤水利施設という。雨の後というタイミングにも恵まれ、ビーズ玉のような水がなだらかな曲線を描いて流れ落ちる様子は幻想的で、会員の讚嘆しきりであった。



写真 3 白水ダム堰堤(竹田市)

新緑の久住高原を越え、JR 久大本線豊後森駅構内の豊後森機関庫跡に到着した。豊後森機関区の扇形機関庫と転車台で、1934 年

から 70 年まで稼動した鉄道遺産である。



写真 4 豊後森機関庫（大分県玖珠町）

この機関庫は戦争遺産としても有名で、大戦中に米軍機の機銃掃射を受け、職員 2 人が犠牲となった。その弾痕が機関庫の壁に今も残っている。今後は鉄道記念公園として整備・保存されるという。他にも合わせて十数箇所を見学するという、例によってハードな見学旅行であったが、幹事役の尾崎・徳永両会員の綿密なプランニングと安全運転のお陰で、一同満足の内に全行程を無事完了することができた。両氏に感謝申し上げます。

年次総会は荻の里温泉で行い、前年度の事業報告・会計報告と、役員継続人事が承認された。今年度の主要事業としては、11月に久留米市で開催される日本技術史教育学会全国大会に共催者として参画することが了承された。2年前の産業考古学会全国大会（北九州市）に続くもので、小会の存在を広く全国にアピールすることになる。会員諸氏の御協力をお願いするものである。

< 総会会計報告 >

収入は、前年度繰越金 113,624 円と会費の合計 161,718 円

支出は、会報発送費 2 回を含み 9 件の合計 32,437 円

収支決算は、129,281 円となった。

平成 21 年 4 月 25 日現在

事務局長 砂場一明

【お知らせ】

共催イベント・中村式鉄筋コンクリート研究会第 3 回シンポジウム開催について

期日：平成 21 年 10 月 10 日(土)

シンポジウム：13:30 15:30

場所：北九州イノベーションギャラリー
(北九州市八幡東区東田二丁目 2-11)

「我が国の高炉スラグの資源化に果たした鉦滓煉瓦の役割りについて」古川柳太郎(新日鐵高炉セメント(株))

「鉦滓煉瓦の歴史と地域性 - 北九州各地に遺る構造物を中心に - 」市原猛志(産業考古学会)

「旧安田製釘所八幡工場内発電所の解体調査」荒木信仁(安田工業(株))

「大里臨海部産業建築群の保存活用について」宮武正三(北九州市建築都市局)

「NRC 構造の高炉セメント使用事例と今後の活用方法」京牟禮実(九州職業能力開発大学校)

「これまでの NRC 研究会の活動報告」

磯野重浩(九州職業能力開発大学校)

見学会：16:00 ~ 17:00 安田工業八幡工場

問合せ：中村式鉄筋コンクリート研究会

(093-693-3035【九共大堤研】/ nrckenkyukai@gmail.com)



共催イベント・日本技術史教育学会 2009 年度全国大会(久留米)開催案内

総会報告にも挙げたとおり、2007 年の産業考古学会開催以来の全国大会を誘致いたします。多くの方の参加をお待ち致します。

期日：2009 年 11 月 21 日(土) ~ 22 日(日)

21 日 10:00 ~ 18:00 研究発表会(特別講演も計画中)・久留米市立中央図書館(久留米市野中町 970-1)) 終了後に懇親会を予定。

22 日 終日 筑後地方見学会 筑後川昇開橋・久留米伝統産業の見学など(詳細未定)。

詳細は決まり次第、小会ウェブサイト(次頁末)にてお知らせいたします。

問合せ：小会事務局(連絡先は次頁)まで。

会報原稿募集

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は以下の通り。

・【研究発表】...産業考古学に関連する学術的報告。B5版2～4枚(1400～2800字程度)。

・【お知らせ】...学会やイベント告知、産業遺産に関連したお知らせなど(700字以内)。

いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更を施す場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

会報第12号・目次

【巻頭言】	【お知らせ】
ちょっぴり遅れたご挨拶	中村式鉄筋コンクリート研究会第3回シンポジウム開催について
.....池森寛 1 3
【報告】	
2009年度総会及び見学会	技術史教育学会全国大会(久留米市)開催について
.....砂場一明 2 3
	会報原稿募集
 4
	今後の予定
 4

(お知らせ内の各イベントは、頁末の当会ウェブサイトからもご確認ください)

今後の予定

月・日	活動内容
9月 14～18日	大学コンソーシアム関門 「関門の近代化遺産」講義
10月10日	中村式鉄筋コンクリート研究会研究発表会(北九州市)
11月6～8日	産業考古学会全国大会 (岡山県津山市)
11月 21～22日	技術史教育学会全国大会 (久留米市)

【予定は都合により変更する事があります】

<編集後記>

会報もなんとか12号を数えるまでに至った。しかしながら、原稿/投稿者の不足は号を追う毎に深刻なものになっている。情報提供コンテンツとして会報が今後も続くためにも、出来るだけ多くの方々に声を挙げていただかないと、会報の意義も薄れてくる。どのような形でも構わないので、各地からの投稿をただお願いしたい。(市原)

会費納入・ご寄付のお願い

当会は事務局体制や会報を充実させるため、会則により年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円徴収させて頂いています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程どうぞ宜しくお願いいたします。

会費納入・寄付先口座【郵便口座】

17430-88882241

キュウシュウサンギョウコウコガツカイ

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付
TEL&FAX: 0940-36-5501 E-mail: k-sunaba@jcom.home.ne.jp
URL: <http://f17.aaa.livedoor.jp/~heritage/>

学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者(iota_titanus@yahoo.co.jp)まで連絡願います。